

2 大王製紙株式会社に関して

以下平成 23 年 11 月 22 日の朝日新聞記事を引用する

<http://www.asahi.com/national/update/1122/TKY201111220148.html>

大王製紙（東証 1 部上場）の子会社から巨額の借入れを行い、32 億円の損害を与えた疑いが強まったとして、**東京地検特捜部は 22 日午前、大王製紙前会長の井川意高（もとか）容疑者（47）を会社法違反（特別背任）容疑で逮捕**し、発表した。特捜部の調べに対し、井川前会長は容疑を認めた上で、「借入金のほとんどは海外のカジノでのギャンブルに使った」と話しているという。

特捜部はまた、東京都渋谷区の井川前会長の自宅などの捜索に乗り出した。子会社からの借入れの経緯や借入金の使途などについて、全容解明を目指す。

井川前会長は、自ら役員を務める連結子会社 7 社から、**昨年 5 月～今年 9 月に計 26 回にわたり、取締役会の承認を得ないまま、無担保で計約 106 億 8 千万円を借り入れた。**現金と株式の形で一部は返済されたが、大王製紙は株式での返済を認めず、85 億 8 千万円を損害額として特捜部に 21 日に告発していた。

このうち特捜部は、今年 7～9 月に、4 社から 7 回にわたって借り入れた 32 億円分を逮捕容疑とした。

井川前会長が借りた資金のうち約 8 億 5 千万円は、前会長が指定したカジノ運営会社の口座に振り込まれた。残る約 98 億 3 千万円は前会長の個人口座に振り込まれたが、最終的にはほぼ全額がカジノ運営会社の口座に入金されていたという。

特捜部は、井川前会長がマカオやシンガポールでの私的なカジノ賭博に使うために借り、返済の見通しもないとみている。

井川前会長は創業者・井川伊勢吉氏（故人）の孫で、**07 年 6 月に 42 歳で社長に就任したが、業績不振の責任を取って今年 6 月に退任。**その後は会長職に退いたが、9 月に問題が発覚して会長も退いた。

同社が設置した特別調査委員会が先月 28 日に公表した報告書は、今回の問題の背景として、井川前会長と、その父親で同社顧問だった高雄氏（74）に「絶対的に服従する企業風土があった」と指摘。高雄氏も前会長への貸し付けの増加を防げなかった責任を問われ、顧問を解任された。

大王製紙は 1943 年に製紙 14 社が合併して誕生した国内 3 位の総合製紙会社。本社と主力の生産拠点は愛媛県四国中央市にあり、「エリエール」のティッシュペーパーなどで知られる。

この問題で大王製紙は、上場廃止のおそれがあると投資家に注意を促す「監理銘柄」に指定された。来月 14 日までに決算を発表できなければ上場廃止となるため、井川前会長への貸し出し分を決算に反映させる作業が続けられている。

3 この問題の総括

この大王製紙社長の就任時期は2007年から2011年6月までである。昨年5月～今年9月に計26回にわたり、取締役会の承認を得ないまま、無担保で計約106億8千万円を借り入れて、カジノ等の借金返済にあてており、会社法違反（特別背任）容疑で逮捕されたものである。

この人物が社長就任していた時期に前原誠司議員の管轄する民主党京都府第2区総支部に高額の献金されていたことから、この問題が明らかになれば背任罪で逮捕された社長及び、上記企業と前原議員との金のやり取りで、何らかのつながりがある可能性があるとする有権者から指摘されても仕方のない事である。

以上